

計算社会科学研究センター
2025 年度活動報告書
(2025 年 4 月～2026 年 3 月)



目 次

I. 計算社会科学研究センターの概要	
II. 組織の編成	
1. 構成と人員	
2. 研究部門と支援部門	
III. 最近における特記事項	
1. Journal of Computational Social Science について	
1.1 ジャーナル刊行	
2. 計算社会科学の人材育成	
2.1 「神戸大学公開シンポジウム『研究ってナニ?～私たちのリアルな挑戦～高校生と大学研究者の場合』」	
2.2 CCSS Workshop on Computational Social Science: Simulation + Data Science + Networks	
2.3 The 3rd Joint CCSS-UvA Workshop on Computational Social Science and Intelligent Systems, Amsterdam 2025	
2.4 YouTube チャンネル『CCSS School on Computational Social Science』	
IV. リサーチフェロー	
V. 研究実績と活動状況	
1. シミュレーション部門	
上東 貴志 (部門長)	
北野 重人	
大石 哲	
佐野 英樹	
2. データ分析部門	
柴本 昌彦 (部門長)	
西谷 公孝	
中川 丈久	
栗木 契	
小林 照義	
西村 和雄	
ホリオカ・チャールズ ユウジ	
加藤 諒	
松井 暉	

3. データベース部門

高槻 泰郎（部門長）

小代 薫

VI. 今後の展望と方針

I. 計算社会科学研究センターの概要

計算社会科学研究センター（CCSS：Center for Computational Social Science）は、社会科学、計算科学、データサイエンスの融合領域である計算社会科学における共同研究を推進し、計算科学とデータサイエンスに基づいた新しい社会科学としての計算社会科学の確立と体系化を目指し、世界的に同領域を牽引する国際研究拠点を形成することである。

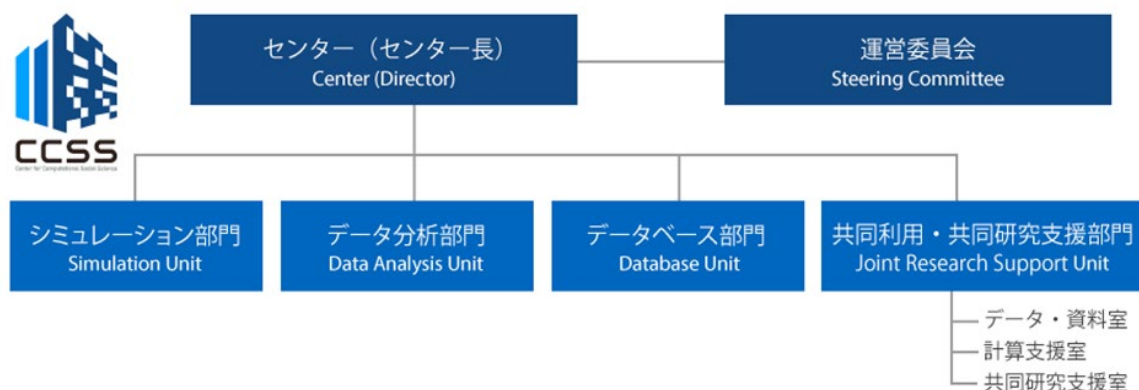
本センターは、2017年3月15日に経済経営研究所の部局内組織として創設され、2018年4月1日に全学基幹研究推進組織となる。

計算社会科学研究センターは、前述の目的を達成するために、シミュレーション部門、データ分析部門、データベース部門、共同利用・共同研究支援部門（2021年4月設置）で構成され、計算社会科学における先端研究、研究を促進するための技術開発、研究を促進するためのデータベース作成、その他学術研究の推進と普及のために必要な研究等に取り組んでいる。

計算社会科学は、近年急速に発展しているビッグデータや計算技術に基づく「新しい社会科学」である。オンライン上で取得可能なビッグデータ、コンピュータ・シミュレーション、ネットワーク分析を中心とした高度な計算技術を用いた社会現象の定量的分析であり、近年急速に発展している。本センターは、計算社会科学に特化した唯一の研究センターであり、他大学にない独自性の高いものである。

II. 組織の編成

1. 構成と人員



運営委員（2025 年 4 月 1 日現在）

氏名	職位	部門	所属
上東 貴志	センター長 教授	シミュレーション部門	計算社会科学研究センター
柴本 昌彦	副センター長 教授	データ分析部門	計算社会科学研究センター
高槻 泰郎	副センター長 准教授	データベース部門	経済経営研究所
西谷 公孝	教授	データ分析部門	経済経営研究所
砂原 庸介	教授		法学研究科
小林 照義	教授	データ分析部門	経済学研究科
音川 和久	教授		経営学研究科
高橋 新吾	教授		国際協力研究科
天能 精一郎	教授		システム情報学研究科
大石 哲	教授	シミュレーション部門	都市安全研究センター

2. 研究部門と支援部門（2025 年 4 月 1 日現在）

シミュレーション部門

社会経済モデルのシミュレーションに基づく計算社会科学領域の研究を行う。

職 位	氏 名		学 域
教授	上東 貴志	Takashi KAMIHIGASHI	先端経済経営研究学域
教授	北野 重人	Shigeto KITANO	先端経済経営研究学域
教授	大石 哲	Satoru OISHI	工学域
教授	佐野 英樹	Hideki SANO	システム情報学域

データ分析部門

大規模データに基づく計算社会科学領域の研究を行う。

職 位	氏 名		学 域
教授	柴本 昌彦	Masahiko SHIBAMOTO	先端経済経営研究学域
教授	西谷 公孝	Kimitaka NISHITANI	先端経済経営研究学域
教授	中川 丈久	Takehisa NAKAGAWA	法学域
教授	小林 照義	Teruyoshi KOBAYASHI	経済学域
教授	栗木 契	Kei KURIKI	経営学域
研究教授	西村 和雄	Kazuo NISHIMURA	先端経済経営研究学域
研究教授	ホリオカ・チャールズ・ユウジ	Charles Yuji HORIOKA	先端経済経営研究学域
准教授	加藤 諒	Ryo KATO	先端経済経営研究学域
講師	松井 暉	Akira MATSUI	先端経済経営研究学域

データベース部門

計算社会科学に関わるデータベースの構築を行う。

職 位	氏 名		学 域
准教授	高槻 泰郎	Yasuo TAKATSUKI	先端経済経営研究学域
特命講師	小代 薫	Kaoru KOSHIRO	先端経済経営研究学域

共同利用・共同研究支援部門

職 位	氏 名		学 域
教授	榎本 正博	Masahiro ENOMOTO	データ資料室
講師	國本 光正	Terumasa KUNIMOTO	データ資料室
教授	藩 俊毅	Nobuaki HAMAGUCHI	計算支援室
助教	内田 並子	Namiko UCHIDA	計算支援室
教授	岩佐 和道	Kazumichi IWASA	共同研究支援室
教授	柴本 昌彦	Masahiko SHIBAMOTO	共同研究支援室
助教	中田 未央	Mio NAKATA	共同研究支援室
助手	下大蘭 充重	Michie SHITAOZONO	共同研究支援室

Ⅲ. 最近における特記事項

1. Journal of Computational Social Science について

1.1. ジャーナル刊行

平成 30 (2018) 年 計算社会科学の国際的専門学術誌 『Journal of Computational Social Science』を創刊した。

神戸大学計算社会科学研究センター (CCSS: Center for Computational Social Science。以下「CCSS」という。) と経済経営研究所の協力の下で、平成 30 (2018) 年 1 月にこの領域において世界初となる専門学術誌 『Journal of Computational Social Science』 (Springer 社 以下「JCSS」という。) が創刊され、上東貴志計算社会科学研究センター長が初代編集委員長に就任した。

計算社会科学に特化した世界初の査読付学術雑誌として、世界中から多数の論文が投稿されており、創刊した 2018 年から 2024 年までの 7 年間で 321 本の論文を掲載している。計算社会科学研究の発表の場として既に国際的に広く認識されており、優れた研究成果を世界へ発信する場となっている。JCSS の編集委員は、世界的に活躍する 28 名の研究者からなり、その所属機関の位置する国は世界 13 か国に及ぶ。また過去 3 年間の掲載論文著者の所属機関国は 37 か国となり JCSS が世界的に広く開かれた国際学術雑誌であるだけでなく、国際的需要が極めて高いことも表している。

2020 年 JCSS は、Clarivate Analytics 社 (以下「CA 社」という) が 2015 年から新たなデータベースとして導入した Emerging Sources Citation Index(ESCI)に収録された。ESCI は、ジャーナルとして国際的な基準に達しており、かつ今後、質の向上が見込まれる学際的なジャーナルを集めたデータベースであり、2018 年 1 月の創刊間もない JCSS が収録されたことは意義深い。

またクラリベイト社が発表した 2025 年の Journal Impact Factor は 2.6, 過去 5 年間のインパクトを表す指数である 5 Year Impact Factor は、これまで一番高い 3.0 を獲得した。引き続き、JCSS の Social Science Citation Index (SSCI) への掲載を目指している。

SPRINGER NATURE LinkLogin

Menu

Search

Cart

HomeJournal of Computational Social Science



Journal of Computational Social Science

Publishing model
Hybrid

Submit your manuscript →

Kobe UniversityGreat news! Funding is available for open access publishing.
Explore open access fundingChange institution

Journal menu

Overview

Journal of Computational Social Science is an interdisciplinary journal focusing on research across social sciences, physics, biology, management science, computer science, and data science.

Publishes research spanning various fields and using computational approaches.
Invites contributions analyzing social/economic structures and phenomena.
Benefits scholars seeking a computational perspective on social and economic structures.
First published in January 2018.

Journal metrics

Journal Impact Factor
2.3 (2024)

5-year Journal Impact Factor
2.5 (2024)

Submission to first decision (median)
27 days

Downloads
337.8k (2024)

Editor-in-Chief
Takashi Kamihigashi

2. 計算社会科学の人材育成

計算社会科学研究センターでは、今後の計算社会科学を牽引する人材を養成するため、また、世界的に活躍する計算社会科学の研究者と若手研究者との交流や議論を交わす場を設けることを目的とし、国際カンファレンスの開催やカンファレンスの内容を動画で作成・公開している。

2.1. 神戸大学公開シンポジウム「研究ってナニ？～私たちのリアルな挑戦～高校生と大学研究者の場合」

2025年8月2日（土）、神戸大学百年記念館において、計算社会科学研究センターの主催（工学部、システム情報学部、医学部保健学科、経済学部、みらい開拓人材育成センター、RIEB セミナーの共催）により、公開シンポジウム「研究ってナニ？～私たちのリアルな挑戦～高校生と大学研究者の場合～」を開催した。本シンポジウムは、「研究とは何か」という根源的な問いを軸に、高校生と大学研究者とが世代や立場を超えて対話する、他に類を見ない貴重な機会となった。当日は多数の来場者で会場が埋まり、終始熱気に包まれた雰囲気の中で進行し、参加者から非常に高い評価を得て、内容・運営ともに大変充実した成功裏のイベントとなった。

開会にあたり、上東貴志センター長より挨拶と趣旨説明があり、「計算社会科学」という新しい研究分野について紹介された。続く第一部では、公募により選ばれた高校生2名（インソール開発に関する研究、ワイソフのゲームに関する研究）と、本学の若手教員3名（大西鮎美氏：ウェアラブルコンピューティング、松井暉氏：計算社会科学によるユーザー行動研究、福重春菜氏：看護現場の課題解決研究）が、それぞれの研究内容について報告を行った。高校生と第一線の研究者が対等な立場で自らの研究を語り合う貴重な場となり、聴衆の関心を強く引きつける、非常に見応えのある内容であった。



第二部では、公募により採択された高校生によるポスターセッション（8課題）を実施した。参加した高校生たちは、自らの研究成果を来場者に発表し、活発な質疑応答を通じて実践的なプレゼンテーション経験を積むことができた。会場は終始熱気にあふれ、高校生同士が互いの研究に刺激を受け合う、知見交流の場としても大いに機能した。大学教員や来場者からも積極的な質問やコメントが寄せられ、各ブースでは予定時間を超えて議論が続くほどの盛り上がりを見せた。

第三部では、報告者に加え上東氏・内藤氏をモデレータに迎え、パネルディスカッションを実施した。オンライン質問フォームおよび口頭質問を合わせて50件を超える質問・コメントが寄せられ、時間を忘れるほど活発な議論が展開された。この盛況ぶりは、参加者の関心の高さと本シンポジウムの内容の充実度を如実に物語るものであり、企画の意図を大きく上回る手応えを得ることができた。高校生からの率直な質問に研究者陣が真摯に応じる場面も多く見られ、世代を

超えた知的対話の理想的な姿が体现された、印象深いセッションとなった。

ディスカッション終了後には、上東センター長より参加高校生への報告証明書授与式が行われ、会場は温かい拍手に包まれた。また、近江戸伸子みらい開拓人材育成センター長による閉会挨拶では、高大連携プログラム「ROOT プログラム」の紹介がなされ、今後の継続的な連携への期待が示された。

総じて、本シンポジウムは、高校生同士の知見交流、そして若手研究者の研究経験や大学の取り組みへの理解を促進する場として、極めて意義深いものとなった。50 件を超える質問・コメントが寄せられたことに象徴されるように参加者の熱意も非常に高く、企画から当日運営に至るまで一貫して丁寧に準備された結果、内容・運営の両面において大変充実したイベントとして、参加者から高い評価を得て成功裏に終了した。今後も高大連携の取り組みをさらに発展させ、次年度以降の継続的な開催が期待される。



2.2. CCSS ワークショップ「計算社会科学：シミュレーション+データサイエンス+ネットワーク」

2025 年 12 月 20 日、オーストラリア・シドニー工科大学（UTS）ビジネススクールにて、神戸大学計算社会科学研究所（CCSS）、UTS ビジネススクール、兵庫県立大学大学院情報科学研究科、オーストラリア国立大学経済学研究科の共同主催によるワークショップ「計算社会科学：シミュレーション+データサイエンス+ネットワーク」を開催した。国際的な学術連携を目的とした本ワークショップには、4 機関から研究者・大学院生が一堂に会し、計算社会科学という発展途上の研究領域について、理論から応用に至るまで多角的な議論が交わされた。参加者からの高い評価とともに活発な議論が終始展開され、当初の期待を大きく上回る、非常に充実した内容で成功裏に終了した。

冒頭、CCSS 柴本昌彦教授がセンターの概要を紹介し、今後の発展には海外機関との連携による国際的な学術ネットワークの構築・強化が重要であると力強く述べたほか、自身のマクロ経済学・国際金融政策研究についても丁寧な説明を行い、会場の関心を強く引きつけた。

続いて行われた研究発表には、各大学の教員・博士課程学生を含む計 8 名が登壇し、シミュレーション、データサイエンス、ネットワークに関する幅広いテーマについて報告した。内容は、マクロ経済学、ゲーム理論、条件付き合理



性に基づく行動シミュレーション、リーダーの影響に関するネットワーク分析、動的システム・動的計画法の計算理論など理論・応用の両面にわたり、いずれも高い専門性と独自性を備えたものであり、聴講者からは感嘆の声も聞かれるほどの完成度であった。

加えて、日本株式市場の時系列データに対するトポロジカル・データ分析、人流と小売パフォーマンスの粒度データ分析、Wikipedia の大規模言語横断分析による知識構造の定量化など、ビッグデータ分析に焦点を当てた最先端の発表も複数行われ、聴講者の知的好奇心を大いに刺激した。オーストラリア国内の他大学からも教員・大学院生が聴講者として多数参加し、各発表後には質の高い質疑応答が交わされ、会場全体が終始熱気に包まれた、密度の濃いセッションとなった。専門分野の異なる参加者同士が積極的に意見を交わす姿が随所に見られ、単なる研究発表会にとどまらない、実り多い交流の場となったことも大きな特徴であった。

最後に、CCSS 上東貴志センター長がリモートで閉会挨拶を行い、当日の発表・議論を総括するとともに、今後の国際共同研究のさらなる発展への展望を述べた。UTS ビジネススクールでの開催は大きな成功を収め、神戸大学、UTS、兵庫県立大学、オーストラリア国立大学という 4 機関の連携が一層強化される、極めて意義深い機会となった。

総じて、本ワークショップは、計算社会科学という新しい研究領域における国際的な知見交流を大きく前進させる場となり、参加者の熱心な議論の様子からも、企画・運営の両面において高く評価される会となったことがうかがえる。限られた開催時間の中で理論研究からビッグデータ分析まで幅広いテーマを網羅し、国際色豊かな参加者による活発な意見交換が実現した点は、本ワークショップの大きな成果であるといえる。今後もこうした国際連携の取組みを継続的に発展させていくことが期待される。



2.3. 第3回 CCSS-UvA 合同ワークショップ「計算社会科学とインテリジェントシステム」開催報告（アムステルダム 2025） 2026 年 2 月 26 日、オランダ・アムステルダム大学インフォマティクス研究所において、神戸大学計算社会科学センター（CCSS）、アムステルダム大学インフォマティクス研究所、理化学研究所の共催により、研究ネットワーク構築を目的としたワークショップ「The 3rd Joint CCSS-UvA Workshop on Computational Social Science and Intelligent

Systems, Amsterdam 2025」を開催した。2024 年度・2025 年度に続き 3 回目となる本ワークショップは、これまでの積み重ねを土台に一層の深化を遂げ、参加者からの高い評価とともに、非常に充実した内容で成功裏に終了した。

本ワークショップは、「計数的手法により社会の仕組みを理解する」を共通テーマとし、「Economics」「Networks」

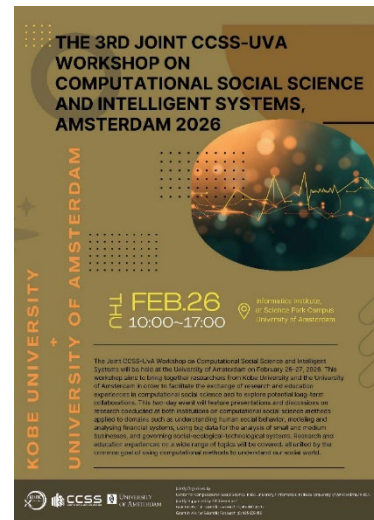
「Enterprise and Governance」の 3 分野でセッションを設定した。若手研究者を中心に計 10 名の研究者が研究成果を発表し、分野横断的な視点から活発な意見交換が行われた。回を重ねるごとに議論の質が高まっており、今回も国際共同研究に向けた具体的かつ実践的な議論が数多く交わされ、参加者一同、大きな手応えを得た。経済学、ネットワーク科学、企業・ガバナンス研究という異なる専門性を持つ研究者が一堂に会したことで、単一分野では得られない新たな着想が随所で生まれ、セッション終了後も議論が続く場面が多く見られた。

本ワークショップを通じて、将来的な長期・継続的な国際共同研究に向けた具体的な連携基盤を構築することができた点は、特筆すべき成果である。単発の学術交流にとどまらず、3 回にわたる開催実績を経て、着実に信頼関係と協働体制が築かれてきたことがうかがえる、極めて意義深い機会となった。

翌 2 月 27 日には、アムステルダム大学社会・行動科学部を表敬訪問し、同学部の Computational Social Science プログラムに所属する学生約 90 名によるプロジェクト発表（約 20 件）に参加した。学生たちの発表水準は高く、若い世代の育成状況を直接確認できる貴重な機会となった。テーマの独創性やデータ分析の丁寧さなど、教育プログラムの充実ぶりを裏付ける発表が数多く見られ、視察を行った教員一同から感嘆の声が上がるほどであった。発表参加後には、同学部の Student Advisor である Maartje Meijers 氏、Steven Pickering 教授と、CCSS 上東貴志センター長との間で、両大学間の学術交流協定に関する協議を行い、今後の連携拡大に向けた前向きな議論が交わされた。

令和 8 年度には、研究交流を兼ねた「The 4th CCSS-UvA Workshop（仮）」を神戸大学にて開催する予定であり、今回築かれた連携基盤をもとに、さらなる発展が大いに期待される。

総じて、本ワークショップを通じて、CCSS とアムステルダム大学、理化学研究所との間の学術連携がさらに強化されるとともに、次年度以降の継続的な国際共同研究に向けた具体的な足がかりを得ることができた。3 回目を迎えてなお高い熱量を維持し続けている本取組みは、国際共同研究のモデルケースといえる成果を上げており、今後の発展が非常に楽しみな企画である。



2.3. YouTube チャンネル『CCSS School on Computational Social Science』

主に大学院生や研究者を対象に、2022 年に『計算社会科学入門』（丸善出版、2021 年 1 月発行）12 章のうち 9 章の紹介動画とともに開設した。その後も動画を追加している。

CCSS School on Computational Social Science - YouTube

<https://www.youtube.com/@ccssschooloncomputationals1386/featured>

IV. リサーチフェロー

2025 年 4 月 1 日現在、22 名のリサーチフェローが所属している。

	研究者氏名	所属	職名
1	Alain Barrat	CNRS, Centre de Physique Théorique, 東京工業大学	Deputy director, 特任教授
2	Ciro Cattuto	ISI Foundation	Principal Scientist
3	Emilio Ferrara	Univ of Southern California	Professor
4	Petter Holme	Aalto University	Professor
5	Kimmo Kaski	Aalto University	Professor
6	増田 直紀	State University of New York at Buffalo	Professor
7	Jesús Gómez Gardeñes	University of Zaragoza	Associate Professor
8	Corrado Di Guilmi	University of Technology Sydney;	Senior Lecturer
9	鳥海 不二夫	東京大学	教授
10	笹原 和俊	東京工業大学	准教授
11	瀧川 裕貴	東北大学	准教授
12	遠藤 薫	学習院大学	教授
13	藤原 義久	兵庫県立大学	教授
14	和泉 潔	東京大学	教授
15	野田 五十樹	産業技術総合研究所	総括研究主幹
16	伊藤 伸泰	理化学研究所	チームリーダー
17	榊 剛史	株式会社ホットリンク, 東京大学未来ビジョン研究センター	開発本部 R & D 部長, 客員研究員
18	Salama Shady	立命館大学	助教
19	三浦 崇寛	文部科学省	係員

20	田中 克幸	滋賀大学	助教
21	佐々木 洋介	新潟産業大学	講師
22	Waqar Wafa Tariq	神戸大学	非常勤講師

V. 研究業績と活動状況

教授 上東 貴志 (Takashi KAMIHIGASHI)

- ・ 計算社会科学センター／シミュレーション部門
- ・ 経済経営研究所

研究活動

<研究業績>

【論文】

■レフェリー付論文

掲載済

1. 「トピックセンチメント分析による日銀総裁会見の比較」『情報処理学会論文誌』 Vol.66, No.8, 1076-1085 頁 (関和広、柴本昌彦と共著) 2025 年 8 月
2. “Critical Capital Stock in a Continuous-Time Growth Model with a Convex-Concave Production Function,” (with Ken-Ichi Akao and Kazuo Nishimura), *Journal of Mathematical Economics*, Vol.119, 103146, doi.org/10.1016/j.jmateco.2025.103146, August 2025

掲載予定

1. “Quantitative convergence rates for stochastically monotone Markov chains,” (with John Stachurski), *Journal of Applied Probability*, forthcoming

未掲載論文

1. “Forward-looking Intertemporal Optimization and Contingent Rationality in an Agent-based Model” (with Corrado Di Guilmi), Discussion Paper Series, No.DP2026-013, RIEB Kobe University, 34 pp., March 2026
2. “Stationary Distributions in Monotone Markov Models: Theory and Applications,” (with John Stachurski), Discussion Paper Series, No.DP2026-09, RIEB Kobe University, 46 pp., March 2026

<その他>

1. 「社会課題の構造を多元的な視点で解きほぐす」『「知の ENGINE」シリーズ 第 1 回シンポジウムレポート』 14-17 頁 2024 年 8 月
2. 「計算社会科学の発展と可能性：国内外の展開と少子化対策への応用」『「知の ENGINE」シリーズ 第 1 回シンポジウムレポート』 9-11 頁 2024 年 8 月

<学会報告等研究活動>

1. (報告) “Contingent Rationality: A New Behavioral Foundations for Macroeconomic Models,” The 3rd Joint CCSS-UvA Workshop on Computational Social Science and Intelligent Systems, Amsterdam 2025, Informatics Institute, University of Amsterdam 2026 年 2 月 26 日
2. (モデレーター) 「パネルディスカッション」『神戸大学公開シンポジウム「研究ってナニ？～私たちのリアルな挑戦～高校生と大学研究者の場合」』 神戸大学 2025 年 8 月 2 日

<社会活動>

■所属学会

1. 日本経済学会
2. 計算社会科学会
3. IEFS Japan
4. 数理経済学会

■学会役員

1. 計算社会科学会・副会長（2022年1月～）
2. International Economic Association（国際経済学連合）理事（2021年7月～）
3. 計算社会科学会・理事（2021年3月～）
4. 日本学術会議会員（2020年10月～）
5. IEFS Japan 会長（2019年1月～）
6. 日本経済学会・代議員（2018年6月～2022年5月）

■雑誌編集

1. 査読付学術雑誌「Journal of Computational Social Science」(JCSS) Editor-in-Chief
2. 査読付学術雑誌「International Journal of Economic Theory (Wiley)」 Editor-in-Chief
3. 経済理論専門誌「Economic Theory」の Associate Editor
4. 経済理論専門誌「Economic Theory Bulletin」 Associate Editor
5. 経済理論専門誌「Macroeconomic Dynamics」 Associate Editor
6. 経済理論専門誌「Mathematical Social Sciences」 Associate Editor

■学外委員

1. 科学技術振興機構 戦略的創造研究推進事業「ACT-X」研究領域「[AI活用学問革新創成]AI活用で挑む学問の革新と創成」 領域アドバイザー

教授 北野 重人 (Shigeto KITANO)

- ・ 計算社会科学センター／シミュレーション部門
- ・ 経済経営研究所

研究活動

＜研究業績＞

【論文】

■レフェリー付論文

掲載済

1. “Effectiveness of Capital Controls: Gates versus Walls,” (with Yang Zhou), Empirical Economics, Vol.70, article number 38, pp.835-871, February 2026
2. “Capital Controls or Macroprudential Regulation: Which is Better for Land Booms and Busts?,” (with Yang Zhou), Open Economies Review, <https://doi.org/10.1007/s11079-024-09780-7>, Vol. 36, Issue 3, pp.835-871, July 2025

掲載予定レフェリー付論文

1. “Commodity Prices, Financial Frictions, and Macroprudential Policies,” (with Kenya Takaku), Journal of the Asia Pacific Economy, forthcoming

未掲載論文

1. “Geopolitical Risk and Extreme Capital Flow Episodes,” (with Yang Zhou), RIEB Discussion Paper Series No.2025-32, 63pp., December 2025
2. “The Effectiveness of Capital Flow Management Measures: Evidence from India,” (with Yang Zhou), RIEB Discussion Paper Series No.2025-35, 36pp., December 2025 (Revised March 2026)

＜学会報告等研究活動＞

1. (座長) Session C01: Geopolitical risks, French/Japanese Conference "International Economies: Challenges Ahead", Ryukoku University 2026年3月1日
2. (学会報告) “Geopolitical Risk and Extreme Capital Flow Episodes,” French/Japanese Conference "International Economies: Challenges Ahead", Ryukoku University 2026年3月1日
3. (座長) “Keynote Speech Session,” 2025 Asia-Pacific Symposium on Economics and Finance (The 11th Hanyang-Kobe-Nanyang Conference in Economics), Kobe University 2025年9月19日
4. (学会報告) “Effects of Capital Flow Management Measures on Wealth Inequality: New Evidence from Counterfactual Estimators” 日本経済学会 2025年度秋季大会 弘前大学 2025年9月14日

＜社会活動＞

■所属学会

1. American Economic Association
2. 日本経済学会
3. 日本金融学会

- 4.日本国際経済学会
- 5.IEFS JAPAN

■学内外委員等

- 1.日本金融学会国際金融部会幹事（2018 年～）
- 2.神戸大学金融研究会 幹事（2010 年～）

■学術誌編集

1. Japanese Journal of Monetary and Financial Economics,
Co-editor, 2014～

■学術論文レフリー

1. Journal of Money, Credit, and Banking
2. Journal of International Money and Finance
3. Journal of Macroeconomics
4. Journal of Economics
5. The Manchester School
6. Review of Development Economics
7. Japanese Economic Review
8. Japanese Journal of Monetary and Financial Economics
9. International Economic Journal
10. Japan and the World Economy
11. The B.E. Journal of Macroeconomics
12. Emerging Markets Finance and Trade
13. Economic Modelling
14. Open Economies Review
15. Economics Bulletin
16. Applied Economics Letters
17. Asia-Pacific Financial Markets
18. Economic Systems
19. Applied Economics

＜受賞＞

2025 年 4 月 Top Viewed Article on “Effect of Sovereign Wealth Funds in Commodity-Exporting Economies when Commodity Prices Affect Interest Spreads”, (with Kenya Takaku), Asian Economic Journal, Wiley

教授 大石 哲 (Satoru OISHI)

- ・ 計算社会科学センター/シミュレーション部門
- ・ 都市安全研究センター

研究活動

<研究業績>

【論文】

■レフェリー付論文

1. [Differentiable River Routing for End-to-End Learning of Hydrological Processes](#)

Tristan Hascoet, Victor Pellet, Satoru Oishi, Takemasa Miyoshi

Journal of Geophysical Research: Machine Learning and Computation 3(1) 2026 年 1 月 17 日 査読有り

2. [神戸大学阪神・淡路大震災 30 年シンポジウム：都市安全、減災、復興研究のこれまでとこれから](#)

近藤 民代, 大石 哲, 鎌田 泰子, 津久井 進, 桜井 愛子, 松下 正和, 窪田 亜矢, 磯辺 康子

神戸大学都市安全研究センター研究報告 29 81-93 2025 年 3 月

■レフェリー付論文（掲載予定）

1. [Integrating rainfall return periods in MCDA-based flood risk mapping: a fuzzy-AHP case study in an ungauged watershed](#)

Magfira Syarifuddin, Satoru Oishi, Haryati M. Sengadji, Chris N. Namah, Masria Masria, Atsushi Hamada

Stochastic Environmental Research and Risk Assessment 40(4) 2026 年 4 月 1 日 査読有り

2. [都市規模の地震被害の数値解析データを用いたマルチモーダル深層学習モデルの構築に関する研究](#)

西岡 颯太, 山邊 友一郎, 大石 哲

日本建築学会環境系論文集 91(845) 417-427 2026 年 7 月 1 日

【その他】

<学会報告等研究活動>

■講演（招待講演/基調講演）

- ・ MIRAI BOSAI 2026（主催：神戸大学統合研究拠点）2026 年 3 月 20～21 日開催

『大阪関西万博での熱中症シミュレーションと、ダム of 事前放流最適化から探るデジタルツインとシミュレーションの活用』 について講演

■報告（学会報告/会議報告）

- ・ SIP「スマート防災ネットワークシンポジウム 2025」（主催：内閣府・国立研究開発法人防災科学技術研究所）2025 年 6 月 9 日開催

Session2、『防災デジタルツイン自動作成技術による「次世代型防災情報（NX-HM）」』について講演

<社会活動>

■所属学会

- 1.国際水圏環境工学会 (IAHR)
- 2.土木学会
- 3.水文・水質源学会
- 4.日本気象学会
- 5.米国地球物理学会 (AGU)
- 6.米国気象学会 (AMS)
- 7.砂防学会

■学会役員

1. 土木学会水工学委員会委員

■学外委員/チーム

- ・ 兵庫県武庫川水系河川整備計画フォローアップ懇話会座長
- ・ 阪神西部（武庫川流域圏）地域総合治水推進協議会会長

教授 佐野 英樹 (Hideki SANO)

- ・ 計算社会科学センター/シミュレーション部門
- ・ 大学院システム情報学研究科

研究活動

＜研究業績＞

【論文】

■レフェリー付論文

1. [Enhanced image encryption algorithm based on chaotic hyperbolic PDE systems synchronization](#)
Jeanne Redaud, Hideki Sano
SICE Journal of Control, Measurement, and System Integration 18(1) 2565022-2565022 2025 年 10 月

＜学会報告等研究活動＞

■講演・口頭発表等

1. 拡散系に対するバックステッピングコントローラの有限次元近似
佐野 英樹
第 68 回自動制御連合講演会 2025 年 11 月 2 日
2. PINN を用いた SIR カトリエルモデルの係数決定における変分ネットワークの効果
小池 竜太郎, 佐野 英樹
第 68 回自動制御連合講演会 2025 年 11 月 2 日
3. PINN を用いた SIR カトリエルモデルの係数早期決定における変分ネットワークの導入
小池 竜太郎, 佐野 英樹
日本応用数理学会 2025 年度 年会 2025 年 9 月 4 日

＜社会活動＞

■所属学会

1. The Mathematical Society of Japan
2. The Japan Society for Industrial and Applied Mathematics
3. The Society of Instrument and Control Engineers
4. The Institute of Systems, Control and Information Engineers
5. 日本数学会
6. 日本応用数理学会
7. 計測自動制御学会
8. システム制御情報学会

教授 柴本 昌彦 (Masahiko SHIBAMOTO)

- ・ 計算社会科学センター／データ分析部門
- ・ 経済経営研究所

研究活動

<研究業績>

【著書（分担執筆）】

「現代の貨幣供給について——日本のケース」 鎮目雅人編, 深田淳太郎, 中山智香子, 高槻泰郎, 小林延人, 柴本昌彦, 清水崇 『貨幣再考—移りゆく貨幣の行方を考えるために』 岩波書店 第 III 部第 5 章 2026 年 3 月

【論文】

■レフェリー付論文

□掲載済

1. 「トピックセンチメント分析による日銀総裁会見の比較」『情報処理学会論文誌』Vol.66, No.8, 1076-1085 頁 (関和広、上東貴志と共著) 2025 年 8 月

掲載予定

1. “Cyclical Activity and Inflation under Secular Stagnation: Empirical Evidence Using Data on Japan's Lost Decades,” *Pacific Economic Review*, forthcoming
2. “Measuring Trend Inflation Based on Financial Market Conditions: The Case of Japan,” *Applied Economics Letters*, forthcoming

・未掲載論文

1. “Business-Cycle Dynamics: An Empirical Assessment,” *RIEB Discussion Paper Series* No.DP2025-30, Kobe University, November 2025
2. “The Role of Cyclical Inflation: Evidence from Japan,” (with Takuya Sakaguchi), *RIEB Discussion Paper Series* No.DP2025-22, Kobe University, July 2025

【その他】

1. 「監修者コメント」 柴本昌彦監修 『中小企業経営者アンケート「大同生命サーベイ」 2026 年 2 月度調査レポート』 大同生命保険株式会社 2 頁 2026 年 3 月
2. 柴本昌彦監修 『中小企業経営者アンケート「大同生命サーベイ」 2026 年 2 月度調査レポート』 大同生命保険株式会社 1-13 頁 2026 年 3 月
3. 「監修者コメント」 柴本昌彦監修 『中小企業経営者アンケート「大同生命サーベイ」 2026 年 1 月度調査レポート』 大同生命保険株式会社 2 頁 2026 年 2 月
4. 柴本昌彦監修 『中小企業経営者アンケート「大同生命サーベイ」 2026 年 1 月度調査レポ

- ート』大同生命保険株式会社 1-13 頁 2026 年 2 月
5. 「監修者コメント」柴本昌彦監修『中小企業経営者アンケート「大同生命サーベイ」
2025 年 12 月度調査レポート』大同生命保険株式会社 2 頁 2026 年 1 月
 6. 柴本昌彦監修『中小企業経営者アンケート「大同生命サーベイ」2025 年 12 月度調査レポ
ート』大同生命保険株式会社 1-13 頁 2026 年 1 月
 7. 「監修者コメント」柴本昌彦監修『中小企業経営者アンケート「大同生命サーベイ」
2025 年 11 月度調査レポート』大同生命保険株式会社 2 頁 2025 年 12 月
 8. 柴本昌彦監修『中小企業経営者アンケート「大同生命サーベイ」2025 年 11 月度調査レポ
ート』大同生命保険株式会社 1-15 頁 2025 年 12 月
 9. 「監修者コメント」柴本昌彦監修『中小企業経営者アンケート「大同生命サーベイ」
2025 年 10 月度調査レポート』大同生命保険株式会社 2 頁 2025 年 11 月
 10. 柴本昌彦監修『中小企業経営者アンケート「大同生命サーベイ」2025 年 10 月度調査レ
ポート』大同生命保険株式会社 1-15 頁 2025 年 11 月
 11. 柴本昌彦監修『中小企業経営者アンケート「大同生命サーベイ」2025 年 9 月度調査レポ
ート』大同生命保険株式会社 1-16 頁 2025 年 10 月
 12. 「専門家意見」『中小企業経営者アンケート「大同生命サーベイ」2025 年 8 月度調査レ
ポート』2 頁 2025 年 8 月
 13. 柴本昌彦監修『中小企業経営者アンケート「大同生命サーベイ」2025 年 8 月度調査レポ
ート』大同生命保険株式会社 1-15 頁 2025 年 9 月
 14. 「専門家意見」『中小企業経営者アンケート「大同生命サーベイ」2025 年 7 月度調査レ
ポート』2 頁 2025 年 8 月
 15. 柴本昌彦監修『中小企業経営者アンケート「大同生命サーベイ」2025 年 7 月度調査レポ
ート』大同生命保険株式会社 1-14 頁 2025 年 8 月
 16. 「専門家意見」『中小企業経営者アンケート「大同生命サーベイ」2025 年 6 月度調査レ
ポート』2 頁 2025 年 7 月
 17. 柴本昌彦監修『中小企業経営者アンケート「大同生命サーベイ」2025 年 6 月度調査レポ
ート』大同生命保険株式会社 1-14 頁 2025 年 7 月
 18. 「専門家意見」『中小企業経営者アンケート「大同生命サーベイ」2025 年 5 月度調査レ
ポート』2 頁 2025 年 6 月
 19. 柴本昌彦監修『中小企業経営者アンケート「大同生命サーベイ」2025 年 5 月度調査レポ
ート』大同生命保険株式会社 1-15 頁 2025 年 6 月
 20. 「専門家意見」『中小企業経営者アンケート「大同生命サーベイ」2025 年 4 月度調査レ
ポート』2 頁 2025 年 5 月

21. 柴本昌彦監修『中小企業経営者アンケート「大同生命サーベイ」2025年4月度調査レポート』大同生命保険株式会社 1-14頁 2025年5月
22. 「専門家意見」『中小企業経営者アンケート「大同生命サーベイ」2025年3月度調査レポート』2頁 2025年4月
23. 柴本昌彦監修『中小企業経営者アンケート「大同生命サーベイ」2025年3月度調査レポート』大同生命保険株式会社 1-14頁 2025年4月

＜学会報告等研究活動＞

1. (報告) “Developing Data-Driven Support Systems for Small and Medium-Sized Enterprises,” The 3rd Joint CCSS-UvA Workshop on Computational Social Science and Intelligent Systems, Amsterdam 2025, University of Amsterdam 2026年2月26日
2. (報告) “Challenges in Computational Social Science Research,” CCSS Workshop on Computational Social Science: Simulation + Data Science + Networks, UTS Business School 2025年12月20日
3. (報告) 「データ駆動型アプローチによる中小企業支援の構築：社会科学と計算科学の共創」2025年度異分野共創研究報告会 神戸大学 2025年12月2日
4. (報告) “Identification of Relationship Lending in Bank-Borrower Networks,” (with Yoshitaka Ogisu and Shoka Hayaki), WEAI 100th Annual Conference, San Francisco Marriott Marquis 2025年6月24日
5. (討論者) “The Hidden Driver of Japan’s Interwar Depression: Farm Price Collapse and Redistribution” (渡辺真吾) 日本経済学会 2025年度春季大会 中京大学 2025年5月25日

＜社会活動＞

■所属学会

1. 日本経済学会
2. 日本金融学会
3. American Economic Association
4. Western Economic Association International
5. Royal Economic Society
6. Econometric Society
7. International Association for Applied Econometrics

■雑誌編集

1. *Journal of the Japanese and International Economies (2)*
2. *Asian Economic Journal*
3. *Japanese Economic Review (2)*
4. *Japan and the World Economy*
5. *Asia-Pacific Financial Markets*
6. *Macroeconomic Dynamics*
7. *Review of Development Economics*

■参加プロジェクト

総合地球環境学研究所の研究プロジェクト（「気候適応史料プロジェクト」）

■メディア掲載など

- 1.コメント「約9割の中小企業が物価高の影響を受けるも『価格への未転嫁』は5割超 大同生命調査、『実行可能な改善策を積み重ねることが再成長への鍵』」『OVO』2026年3月30日
- 2.コメント「中小6割がAI活用せず 人材不足で、生保調査」『東京新聞』2026年3月12日
- 3.コメント「中小企業の6割がAI活用せず 人材不足課題、大同生命調査」『静岡新聞』2026年3月12日
- 4.コメント「中小6割がAI活用せず 大同生命調査 人材・ノウハウ不足」『産経新聞』2026年3月12日
- 5.コメント「中小6割がAI活用せず 人材不足で、大同生命調査」『共同通信リアルタイムニュース』2026年3月12日
- 6.コメント「中小企業の6割以上、『生成AIを活用できていない』 大同生命調査、導入のコツは『身近な定型業務による成功体験の積み重ね』」『OVO』2026年2月27日
- 7.コメント「中小、生成AI活用停滞 大同生命調査 成功体験必要に」『日刊工業新聞』2026年2月25日
- 8.コメント「価格転嫁した中小企業72%、前年比13ポイント増 大同生命調べ」『日本経済新聞』2026年1月28日
- 9.コメント「価格転嫁中小の4割 賃上げに利益活用 大同生命、昨年末調査」『日刊工業新聞』2026年1月27日
- 10.コメント「中小企業の人手不足解消は『働きやすさ』が成功のカギに 求められる採用手段の多様化」『OVO』（2025年10月6日付）
- 11.コメント「中小企業は『地震』が最大の懸念、南海トラフ地域で警戒感強まる リスクに備える『事業継続計画』作成は進まず」『OVO』（2025年9月1日付）
- 12.コメント「事業承継を望む中小企業は半数以下に減少、約7社に1社が廃業を予定『後継者の選定、育成』が最大の課題」『OVO』（2025年7月31日付）
- 13.コメント「中小企業の6割超が米国経済政策に不安を感じるも具体策に苦慮 半数が物価高や米国政策等で資金繰りに『支障・不安』」『OVO』（2025年6月30日付）
- 14.コメント「中小企業の半数以上が新規顧客・販路の開拓に取り組み 将来見通しには悲観ながらも、海外進出に挑戦する企業も」『OVO』（2025年5月28日付）

<国際交流活動>

- 1.「Inflation Shocks, Expectations and Monetary Policy」Kenneth N. Kuttner (Williams College) との共同研究

<産官学連携>

・共同研究

1. 大同生命株式会社「中小企業の経営実態に係る調査・研究」(2025)(研究代表者)
2. 尼崎信用金庫:「ESG 要素を考慮した事業性評価の深化を通じた地域における事業者視線体制構築の推進」(2022~2025 年度)(研究参加者)

教授 西谷 公孝 (Kimitaka NISHITANI)

- ・ 計算社会科学センター／データ分析部門
- ・ 経済経営研究所

研究活動

＜研究業績＞

【論文】

■レフェリー付論文（掲載予定）

1. “Sustainable consumption and production: Reconciling environmental responsibility and economic performance in Japanese companies,” (coauthored with Yin, T.), Corporate Social Responsibility and Environmental Management, 33(3), 4227–4247, May 2026

【その他】

1. 「経済経営研究所長に就任するにあたって」『凌霜』第 445 号 29–31 頁 2025 年 4 月

＜学会報告等研究活動＞

1. （基調講演）「地域とともに進めるサステナビリティ経営：中小企業における新しい価値創造のかたち」脱炭素社会の推進に関する包括連携協定シンポジウム「ひょうごから進める脱炭素社会」 ANCHOR KOBE 2026 年 2 月 4 日
2. （招待講演）“Economic and financial sustainability of systems and territories,” The Italian Higher Education System at EXPO 2025 Osaka 1st Italian and Japanese Rector’s Forum 大阪・関西万博 イタリア館 2025 年 5 月 29 日 イタリア大学長会議

＜社会活動＞

■所属学会

1. 環境経済・政策学会
2. 日本社会関連会計学会
3. 日本 LCA 学会
4. 日本会計研究学会
5. Centre for Social & Environmental Accounting Research

＜国際交流活動＞

- ・「環境情報開示の日米比較研究」國部克彦（神戸大学）、Jin Dong Park（タウソン大学）と共同研究
- ・「日本・ドイツ企業における経営管理と環境マネジメントの関係に関する国際比較研究」國部克彦（神戸大学）、梶原武久（神戸大学）、北田皓嗣（法政大学）、Thomas Guenther（ドレスデン工科大学）、Edeltraud Guenther（国連大学）他と共同研究
- ・「アジアにおける企業の環境経営モデルの展開とステークホルダーによる導入支援方策に関する研究」國部克彦（神戸大学）、Nguyen Thi Bich Hue（貿易大学）、Pakpong Pochanart（National Institute of Development Administration）他と共同研究

＜産官学連携＞

- ・株式会社ダイセル：「再生材に対する消費者意識と BtoB 企業の価値創造に関する社会科学的な総合研究」（2023～2025 年度）（研究代表者）
- ・尼崎信用金庫：「ESG 要素を考慮した事業性評価の深化を通じた地域における事業者視線体制構築の推進」（2022～2025 年度）（研究参加者）

教授 中川 丈久 (Takehisa NAKAGAWA)

- ・ 計算社会科学研究所センター/データ分析部門
- ・ 大学院法学研究科

研究活動

<研究業績>

【論文】

■掲載論文（査読なし）

1. 行政罰の概念小史——行政罰概念の形成と転用
中川丈久
もうひとつの憲法学Ⅱ（棟居快行先生古稀記念） 655-685 2026年3月 招待有り責任著者
2. 行政手法を用いた消費者法の将来像——安全・取引・表示——
中川丈久
消費者法 (17) 31-35 2025年9月 招待有り責任著者
3. 行政の実効性の確保論の再考
中川丈久
行政法の理論と実務（宇賀克也先生古稀記念） 413-441 2025年8月 招待有り責任著者

<学会報告等研究活動>

■報告（学会報告/会議報告）

<社会活動>

■所属学会

1. 日本消費者法学会
2. 日米法学会
3. 日本公法学会

■学会役員

1. 日本消費者法学会・理事
2. 日米法学会・理事

■雑誌編集

1. 民商法雑誌 編集委員

■学外委員

1. 消費者庁・消費者安全調査委員会（“消費者事故調”）委員長（2018年10月～）
2. 文部科学省 中央教育審議会・法科大学院等特別委員会・委員（2019年6月～）
3. 文部科学省 教科用図書検定調査審議会・臨時委員（2020年4月～）

4. 兵庫県行政不服審査会・会長
5. 兵庫県情報公開・個人情報保護審査会・会長
6. 兵庫県本人確認情報保護審議会・会長
7. 豊中市情報公開・個人情報保護審査・委員

教授 栗木 契 (Kei KURIKI)

- ・ 計算社会科学センター/データ分析部門
- ・ 大学院経営学研究科

研究活動

＜研究業績＞

【論文】

■掲載論文（査読なし）

1. 「企業家精神の活性化には自由裁量が必要」という考えに、死角はないか
栗木契 季刊ひょうご経済 167 18-19 2025 年 7 月
2. 組織行動としてのエフェクチュアル・マーケティング
栗木契 国民経済雑誌 229(2) 37-53 2025 年 6 月
3. エフェクチュアル・マーケティングを活性化する外発的動機付け
栗木契 商工金融 2025 年 4 月号 2025 年 4 月 招待有り
4. エフェクチュアル・マーケティングを、いかに組織行動として実現するか
栗木契 季刊ひょうご経済 166 14-15 2025 年 4 月

【その他】

President Online2024

- 1 家電量販店の「安売り」はもう卒業…パナソニックが「8 万円の高級ドライヤー」をヒットさせた"新戦略"
栗木契 プレジデントオンライン 2025 年 7 月
2. セロハンテープから戸建て住宅まで作るが…「5 年間ヒット製品なし」に陥った積水化学が変えた「社内評価」の方法
栗木契 プレジデントオンライン 2025 年 5 月

＜学会報告等研究活動＞

■研究発表会

1. エフェクチュアル・マーケティングに学ぶ

栗木契

令和 7 年高津高校生徒研究発表会 2026 年 1 月 30 日 招待有り

■講演

1. 「日本マーケティング本大賞 2025」大賞受賞記念マーケティングサロン「エフェクチュアル・シフト」

栗木契

第221回マーケティングサロン:リアル・オンライン併用開催 2026 年 1 月 9 日 招待有り

<社会活動>

■所属学会

1. 日本商品学会
2. 日本消費者行動研究学会
3. 組織学会
4. 日本商業学会

■学会役員

1. 日本消費者行動研究学会副会長
2. 日本商事学会幹事
3. 日本マーケティング学会理事

■雑誌編集

1. 消費者行動研究（日本消費者行動研究学会）副編集長
2. 一橋ビジネスレビュー編集委員

■学外営利企業の役員

1. 株式会社碩学舎取締役

<受賞>

1. マーケティング本大賞 2025・大賞、『エフェクチュアル・シフト：不確実性に企業家的機会を見いだすマーケティングの探求』千倉書房, 日本マーケティング学会
栗木契 2025 年 10 月

教授 小林 照義 (Teruyoshi KOBAYASHI)

- ・ 計算社会科学センター/データ分析部門
- ・ 大学院経済学研究科

研究活動

<研究業績>

【論文】

■掲載論文（査読なし）

1. Welfare bounds for linear-quadratic network games
Yuki Iwanaga, Teruyoshi Kobayashi
Economics Letters 260 112824-112824 2026 年 1 月 査読有り責任著者
2. Repricing Cascades through Production Networks
Mitsuharu Morita, Teruyoshi Kobayashi
SSRN 6124486 2026 年 1 月 責任著者
3. Heterogeneous Inflation Volatility in Production Networks: Producer vs. Consumer Prices
SSRN 4968158 2025 年 6 月 責任著者

<学会報告等研究活動>

■学会発表

第 5 回計算社会科学大会 (CSSJ2026)

『新卒就職活動のネットワーク・モデル』 2026 年 3 月 3 日

【その他】

1. 小林照義・松井暉「『つながり』から経済を読み解くネットワーク科学 vol.6—グラフ分割とコミュニティ検出②」『経済セミナー』 vol.748 92-100 頁 2026 年 3 月
2. 小林照義・松井暉「『つながり』から経済を読み解くネットワーク科学 vol.5—グラフ分割とコミュニティ検出①」『経済セミナー』 vol.747 80-89 頁 2026 年 1 月
3. 小林照義・松井暉「『つながり』から経済を読み解くネットワーク科学 vol.4—一般化ランダム・ネットワーク」『経済セミナー』 vol.746 117-125 頁 2025 年 11 月
4. 小林照義・松井暉「『つながり』から経済を読み解くネットワーク科学 vol.3—次数分布の再現とネットワーク生成モデル」『経済セミナー』 vol.745 62-70 頁 2025 年 9 月
5. 小林照義・松井暉「『つながり』から経済を読み解くネットワーク科学 vol.2—つながりの構造に潜む 2 つの特徴：スモールワールド性とクラスタ性」『経済セミナー』 vol.744 106-114 頁 2025 年 7 月
6. 小林照義・松井暉「『つながり』から経済を読み解くネットワーク科学 vol.1—ネットワーク科学への招待」『経済セミナー』 vol.743 52-62 頁 2025 年 5 月

■所属学会

1. 日本経済学会
2. 日本金融学会

3. Network Science Society
4. 計算社会科学会

■学会役員

1. 計算社会科学会理事（2022 年 1 月～）
2. [Associate Editor, Advances in Complex sustems](#)（2024 年 11 月～）

■雑誌編集・ジャーナル編集・査読

1. PLOS ONE, Academic Editor（2018 年～）
2. [Program Committee, NetSci 2025](#)（2024 年 11 月）
3. [Program Committee, NetSci 2024](#)（2024 年）
4. [Program Committee, CCS 2024](#)（2024 年）
5. [Program Committee, NetSci-X 2024](#)（2024 年）

研究教授 西村 和雄 (Kazuo NISHIMURA)

- ・ 計算社会科学センター／データ分析部門
- ・ 経済経営研究所

研究活動

<研究業績>

【論文】

■レフェリー付論文

1. "Capital account liberalization, production heterogeneity, and belief-driven fluctuations in financial-constrained economies"(with Takuma Kunieda), *Journal of Macroeconomics*, Vol.86, Article 103715 December 2025
2. "A Two Country Model of Trade with International Borrowing and Lending"(with Kazumichi Iwasa), Khan, M.A., Sagara, N., Zaslavski, A.J. (eds), *Matching, Dynamics and Games for the Allocation of Resources. Monographs in Mathematical Economics*, Vol.7, pp.269-286 October 2025
3. "On the Optimal Non-Autonomous Limit Cycle in the CO2 Emissions Control Problem with Smooth Seasonal Fluctuations"(with Shintaro Asaoka, Tadashi Shigoka, and Makoto Yano), *Communications in Optimization Theory*, Vol.2025(2025), Article ID 46 October 2025
4. "Critical Capital Stock in a Continuous-Time Growth Model with a Convex-Concave Production Function"(with Ken-Ichi Akao and Takashi Kamihigashi), *Journal of Mathematical Economics*, Vol.119, Article 103146 August 2025

■ディスカッションペーパー

1. 非認知能力、行動変容と学力向上：大阪市教育改革の分析（西村和雄、八木匡、古閑龍太郎、岩澤政宗、谷口璃華）2026年3月
2. 授業改善による格差是正の持続的効果：大阪市におけるSESと学力・学習意識の実証分析（西村和雄、八木匡、古閑龍太郎、岩澤政宗、谷口璃華）2025年10月

<学会報告等研究活動>

■記事(メディア掲載/解説/コメント/インタビュー記事/寄稿)

1. 紹介記事「行動変容、非認知能力と学力向上」『朝日新聞デジタル&M』他多数 2026年3月10日
2. 紹介記事「経済格差による学力格差の克服に光 ～『大阪市の授業改善』が示す高い費用対効果～」『MSNニュース』他多数 2025年12月4日
3. 「学校を変える3つの力を全国に」『産経新聞』「正論」 2025年11月17日付朝刊 2025年11月
4. 「『経済格差』で子供の未来奪うな」『産経新聞』「正論」 2025年6月23日付朝刊, 7頁 2025年6月
5. 紹介記事「『なぜそんなに悩むのだろう』...いつまでも答えが出せない人は、じつは何も"考えてない"といえる根拠」『東洋経済ONLINE』(2025年6月12日付)

<社会活動>

■所属学会

1. International Society of Difference Equations
2. Society for the Advancement of Economic Theory (SAET) 2020～ Economic Theory Fellow
3. International Engineering and Technology Institute 2015～ Distinguished Fellow
4. Econometric Society 1992～ Fellow of the Econometric Society
5. 日本経済学会（理論計量経済学会）
6. 日本経済学教育協会（経済学検定試験実施）2002～ 会長
7. 国際教育学会 2006～ 会長
8. 日本数学協会

■雑誌編集

1. *Taiwan Journal of Applied Economics*, Member of the Honorary International Editorial Advisory Board, 2017-
2. *Neuroscience Communications*, Smart Science & Technology, Member of Editorial Board, 2015-
3. *International Journal of Economic Theory*, Basil Blackwell, Managing Editor, 2004-
4. *Brazilian Journal of Business Economics*, Catholic University of Brasilia, Member of Advisory Board, February 2012-
5. *Chaos, Solitons and Fractals*, Pergamon Press, Member of Editorial Board, 1990-
6. *Journal of Reviews on Global Economics*, Lifescience Global, Member of Editorial Board, 2012-
7. *Journal of Macroeconomics*, Elsevier, Member of Editorial Board, 2003-
8. *Journal of Economic Development*, Chung Ang University, Member of Editorial Board, 1997-
9. *International Journal of Dynamical Systems and Differential Equations*, Nova Science Publishers, Member of Editorial Board, 2006-
10. *Mathematical Social Sciences*, North-Holland, Member of Editorial Board
11. *Review of International Economics*, Wiley-Blackwell, Member of Editorial Board, 1997-
12. *Seoul Journal of Economics*, Seoul University, Member of Editorial Board, 1996-
13. *Theoretical Economics Letters*, Scientific Research Publishing, Member of the Editorial Board, April 2011-

■学外委員その他

- 2017～ 大阪市教育委員会 顧問
- 2013～ 総合診断医療研究会 名誉顧問
- 2012～ 高等教育国際基準協会 名誉顧問
- 2012～ 日本学士院会員
- 2005～ NPO これからの教育を考える会理事

＜国際交流活動＞

1. 経済発展と技術導入に関する研究

ワシントン大学 Ping Wang、神戸大学 胡云芳 関西学院大学 國枝卓真(2020 年度～)

2. 経済動学に関する研究

Alain Venditti、AMSE(Aix-Marseille 経済大学)(2020 年度—)

研究教授 チャールズ・ユウジ ホリオカ

(Charles Yuji Horioka)

- ・ 計算社会科学センター／データ分析部門
- ・ 経済経営研究所

研究活動

<研究業績>

【論 文】

■レフェリー付論文

1. チャールズ・ユウジ・ホリオカ、「[44 年後の「フェルドスタイン・ホリオカ・パズル（パラドックス）」合成の誤謬](#)」、阿部修人・宇南山卓・大湾秀・谷崎久志編、『現代経済学の潮流 2024』、一般社団法人日本経済学会、第 1 章、3-32 頁（2025 年 11 月）
2. Charles Yuji Horioka, Emin Gahramanov, and Xueli Tang, “[On the Impact of Long-term Care Insurance on the Behavior of Parents and Children: Theory and Evidence on Japan,](#)” *Review of Economics of the Household*, Vol. 23, Issue 4, pp.1155-1187 (2025 年 12 月)
3. Charles Yuji Horioka and Luigi Ventura, “[Why Do Europeans Save? Micro-Evidence from the Household Finance and Consumption Survey,](#)” *Review of Income and Wealth*, Vol. 71, Issue 2, e70021 (2025 年 5 月)

■学術論文

1. チャールズ・ユウジ・ホリオカ、「日本の家計貯蓄率の過去と将来」、『統計』、日本統計協会、2026 年 3 月号、13-20 頁（2026 年 3 月）

【書 評】

1. ホリオカ、チャールズ・ユウジ、「[書評：宇南山卓著『現代日本の消費分析：ライフサイクル理論の現在地』（慶應義塾大学出版会 2023年5月）](#)」、『経済研究』、Vol. 76, No. 1, Article Number er.br.033524（2025年4月）

<学会報告等研究活動>

1. （報告）"An Innovative Method for Imputing Household Saving for Individual Motives with an Application to Europe" (co-authored with Luigi Ventura) International Association for Research in Income and Wealth (IARIW)-World Bank Group-University of Economics and Business/Vietnam National University Conference on "Improving Well-being Measurement in Data-challenged Environments in Developing Countries for Better Evidence-based Policies" (Melia Hotel, Hanoi, Vietnam) 2025年10月2日
2. （討論者）"Two-Sample Cross Tabulation" (by Tomoki Fujii) International Association for Research in Income and Wealth (IARIW)-World Bank Group-University of Economics and Business/Vietnam National University Conference on "Improving Well-being Measurement in Data-challenged Environments in Developing Countries for Better Evidence-based Policies" (Melia Hotel, Hanoi, Vietnam) 2025年10月2日
3. （開会の挨拶）"Opening Remarks" International Association for Research in Income and Wealth (IARIW)-World Bank Group-University of Economics and Business/Vietnam National University Conference on "Improving Well-being Measurement in Data-challenged

- Environments in Developing Countries for Better Evidence-based Policies" (Melia Hotel, Hanoi, Vietnam) 2025年10月2日
4. (開会の挨拶) "Opening Remarks" International Association for Research in Income and Wealth (IARIW)-World Bank Group-University of Economics and Business/Vietnam National University Conference on "Improving Well-being Measurement in Data-challenged Environments in Developing Countries for Better Evidence-based Policies" (Melia Hotel, Hanoi, Vietnam) 2025年10月2日
 5. (招待講演) "Household Saving in Japan: The Past, Present, and Future" 2025 Asian Economy Workshop (岐阜聖徳学園大学経済情報学部) 2025年10月23日
 6. (招待講演) "Are People Really Selfish, Rational, and Forward-looking?" School of Business Administration American University of Sharjah Lecture Series (School of Business Administration, American University of Sharjah, UAE) 2025年10月14日
 7. (基調講演) "How Are Bequests Divided? The Case of Japan" (co-author with Hideki Konishi, Yoko Niimi, Hiroshi Suzuki, Hiroshi Teruyama, and Takashi Unayama) The 11th Hanyang-Kobe-Nanyang Conference in Economics: "2025 Asia-Pacific Symposium on Economics and Finance" (神戸大学経済経営研究所) 2025年9月19日
 8. (報告) "How Are Bequests Divided? The Case of Japan" (co-author with Hideki Konishi, Yoko Niimi, Hiroshi Suzuki, Hiroshi Teruyama, and Takashi Unayama) 日本経済学会2025年度秋季大会 (弘前大学) 2025年9月13日
 9. (招待講演) "How Are Bequests Divided? The Case of Japan" (co-author with Hideki Konishi, Yoko Niimi, Hiroshi Suzuki, Hiroshi Teruyama, and Takashi Unayama) Korea University Conference on "Recent Advances in Macroeconomics" (Department of Economics, Korea University, Seoul, Korea) 2025年8月24日
 10. (講演) "Why Do Europeans Save? Micro-Evidence from the Household Finance and Consumption Survey" (co-author with Luigi Ventura) [13th World Congress of the Econometric Society \(ESWC 2025\)](#)(COEX, Seoul, Korea) 2025年8月18日
 11. (パネリスト) "Measuring Advancement of Economy and Society: Economic Growth and Well-being" [ESRI \(Economic and Social Research Institute\) International Conference 2025](#) (内閣府経済社会総合研究所主催、Akasaka Intercity AIR, Tokyo) 2025年7月31日
 12. (幹事・座長) [Japan Project Meeting](#) (sponsored by the Australia-Japan Research Center at Australian National University; the Center for Advanced Research in Finance at the University of Tokyo, the Center on Japanese Economy and Business at Columbia University, and the National Bureau of Economic Research) (Asian Development Bank Institute, Tokyo) 2025年7月29日、30日
 13. (招待講演) "On the impact of long-term care insurance on the behavior of parents and children: theory and evidence on Japan" (co-authored with Emin Gahramanov and Xueli Tang) CIGS Workshop on Reforming Long-Term Care Insurance Arrangements (The Canon Institute for Global Studies (CIGS) 主催、オンライン開催) 2025年7月11日
 14. (招待講演) "Why Do Europeans Save?" (co-authored with Luigi Ventura) IARIW 会長就任記念セミナー (公益財団法人アジア成長研究所主催、オンライン開催) 2025年5月15日

＜社会活動＞

■所属学会

- 1.Econometric Society
- 2.International Association for Research in Income and Wealth
- 3.Society of Economics of the Household
- 4.アメリカ経済学会 (American Economic Association)
- 5.全米経済研究所 (National Bureau of Economic Research)
- 6.日本経済学会
- 7.東京経済研究センター

■学会役員

- 1.International Association for Research in Income and Wealth (IARIW) 会長 (2024 年 8 月～)
- 2.日本経済学会 会長 (2023 年 5 月～2024 年 5 月)
- 3.International Association for Research in Income and Wealth (IARIW) 次期会長・会計担当理事 (President-Elect and Treasurer) (2022 年 8 月～2024 年 8 月)
- 4.President, Society of Economics of the Household (2021 年 5 月～2023 年 6 月)
- 5.Council Member, International Association for Research in Income and Wealth (IARIW) (2018 年 8 月～)
- 6.Program Committee, General Conference of the International Association for Research in Income and Wealth (IARIW) (2018 年 8 月～)
- 7.Member, Executive Committee, Society of Economics of the Household (SEHO) (2017 年 6 月～)
- 8.Board Member, Society of Economics of the Household (SEHO) (2017 年 6 月～2024 年 5 月)
- 9.Scientific Committee, Annual Meeting of the Society of Economics of the Household (SEHO) (2017 年 6 月～)
- 10.Co-Director, National Bureau of Economic Research (NBER) Japan Project (2004 年～)
- 11.Research Associate, National Bureau of Economic Research (1987 年～)

■学外委員

- 1.Guest Editor, Pacific Economic Review (2024 年 12 月)
- 2.執行委員会委員・研究委員会委員、慶應義塾大学経済研究所パネルデータ設計・解析センターJPSC (消費生活に関するパネル調査) 部門 (2019 年～)
- 3.公益財団法人アジア成長研究所 理事 (2017 年～)
- 4.広島大学医療経済研究拠点・拠点アドバイザー (2016 年～)
- 5.(公財) 日本国際問題研究所 太平洋経済協力会議 (PECC) 日本委員会委員 (2015 年～)

■雑誌編集

- 1.Editorial Board member, Eurasian Economic Review (2019 年～)
- 2.Editorial Member, Journal of Business and Economic Analysis (2019 年～)
- 3.Editorial Board member, Review of Income and Wealth (2018 年～)
- 4.Editorial Adviser, Asian Economic Journal (2017 年～)
- 5.International Advisory Board member, Singapore Economic Review (2016 年～)
- 6.International Advisory Board member, Thailand and the World Economy (formerly Thammasat Economic Journal) (2015 年～)
- 7.Editorial Advisory Board member, Philippine Review of Economics (2013 年～)
- 8.Board of Editors member, Japan and the World Economy (2006 年～)
- 9.Editorial Board member, Journal of Family and Economic Issues (2004 年～)

■その他メディア掲載など

1. [コラム「Takatoshi Ito, scholarship on Japan's economy transformed \(co-authored Kosuke Aoki, Alan Auerbach, Anil K Kashyap, Tsutomu Watanabe and David Weinstein\)」『VoxEU Column』 2025 年 11 月](#)
2. [コラム「A New Modelling Approach for Evaluating the Trump Tariffs \(co-authored with Nicholas Ford\)」『VoxEU Column』 2025 年 6 月](#)

<国際交流活動>

Luigi Ventura, Sapienza, University of Rome, Italy

“The Saving Behavior of the Elderly in Europe” (2016 年～)

1. Nicholas Ford, University of Cambridge, United Kingdom
“Completing the Solution to the Feldstein-Horioka Puzzle” (2016 年～)
3. Emin Gahramanov, American University of Sharjah, United Arab Emirates; Aziz Hayat, Deakin University, Australia; and Xueli Tang, Deakin University, Australia (2016 年～)
“The Impact of Religiosity and Altruism on Household Behavior”

准教授 加藤 諒 (Ryo KATO)

- ・ 計算社会科学センター／データ分析部門
- ・ 経済経営研究所

研究活動

<学会報告等研究活動>

(学会報告) 快楽的消費のダイナミクスの解明：消費者の経時的な心理的状态が快楽的商品の購買に与える影響 中谷光希, 加藤諒 日本行動計量学会第 53 回大会 2025 年 8 月 31 日

<社会活動>

■所属学会

1. 日本マーケティング・サイエンス学会
2. 日本行動計量学会

■学外委員その他

1. 総務省統計局 個人企業経済統計欠測値補完に関する意見交換会 構成員

<産官学連携>

・ 共同研究

尼崎信用金庫：「ESG 要素を考慮した事業性評価の深化を通じた地域における事業者視線体制構築の推進」(2022 年度～2025 年度) (研究参加者)

講師 松井 暉 (Akira MATSUI)

- ・ 計算社会科学センター／データ分析部門
- ・ 経済経営研究所

研究活動

<研究業績>

【翻 訳】

1. 『サイエンス・オブ・サイエンス』 Dashun Wang and Albert-László Barabási (原著) / 三浦崇寛・松井暉・浅谷公威・坂田一郎・神楽坂やちま (監訳) / SciSci 翻訳委員会 (訳) 森北出版 340 頁 2025 年 7 月

【論 文】

■レフェリー付論文

掲載済

1. “Disruptive transformation of artworks in master-disciple relationships: The case of Ukiyo-e artworks,” (with Shinichi Honna), EPJ Data Science, Vol.15, 45, March 2026

<学会報告等研究活動>

1. (発表) “Global Patterns of Knowledge: Language, Genre, and the Geography of Knowledge,” CCSS Workshop on Computational Social Science: Simulation + Data Science + Networks, UTS Business School, December 20, 2025
2. (発表) “Uncovering Knowledge Production Modes: Geopolitical Biases in Wikipedia's Fundamental Data,” International Workshop on Conspiracy Theory and Misinformation, Kobe University, December 8, 2025
3. (パネリスト) 「パネルディスカッション」神戸大学公開シンポジウム「研究ってナニ？～私たちのリアルな挑戦～高校生と大学研究者の場合」 神戸大学 2025 年 8 月 2 日
4. (発表) 「計算社会科学によるユーザー行動の研究～人の行動の隠れたメカニズム解き明かす挑戦～」神戸大学公開シンポジウム「研究ってナニ？～私たちのリアルな挑戦～高校生と大学研究者の場合」 神戸大学 2025 年 8 月 2 日
5. (ポスター発表) “Staying Streamed: The Impact of Loyalty and Diversity in Driving User Retention on Live Streaming Platforms,” (with Ryo Adachi and Ryo Sasaki), Norrköping, 11th International Conference on Computational Social Science, July 24, 2025
6. (発表) “Global Editing Patterns on Wikipedia Platform Reveal Segmentations in Knowledge Production,” (with Fujio Toriumi, Mitsuo Yoshida, Taichi Murayama, and Shiori Hironaka), 11th International Conference on Computational Social Science, Norrköping, July 22, 2025

【その他】

1. 小林照義・松井暉『『つながり』から経済を読み解くネットワーク科学 vol.6—グラフ分割とコミュニティ検出②』『経済セミナー』 vol.748 92-100 頁 2026 年 3 月

2. 小林照義・松井暉「『つながり』から経済を読み解くネットワーク科学 vol.5—グラフ分割とコミュニティ検出①」『経済セミナー』 vol.747 80-89 頁 2026 年 1 月
3. 小林照義・松井暉「『つながり』から経済を読み解くネットワーク科学 vol.4—一般化ランダム・ネットワーク」『経済セミナー』 vol.746 117-125 頁 2025 年 11 月
4. 小林照義・松井暉「『つながり』から経済を読み解くネットワーク科学 vol.3—次数分布の再現とネットワーク生成モデル」『経済セミナー』 vol.745 62-70 頁 2025 年 9 月
5. 小林照義・松井暉「『つながり』から経済を読み解くネットワーク科学 vol.2—つながりの構造に潜む 2 つの特徴：スモールワールド性とクラスタ性」『経済セミナー』 vol.744 106-114 頁 2025 年 7 月
6. 小林照義・松井暉「『つながり』から経済を読み解くネットワーク科学 vol.1—ネットワーク科学への招待」『経済セミナー』 vol.743 52-62 頁 2025 年 5 月

<社会活動>

■所属学会

1. 計算社会科学会

<国際交流活動>

1. “Quantifying Gender Stereotypes in Japan between 1900 and 1999 with Word Embeddings”
Shintaro Sakai 氏 (Indiana University Bloomington), Haewoon Kwak 氏 (Indiana University Bloomington), Jisun An 氏 (Indiana University Bloomington) との共同研究

准教授 高槻 泰郎 (Yasuo TAKATSUKI)

- ・ 計算社会科学センター／データベース部門
- ・ 経済経営研究所

研究活動

＜研究業績＞

【著書（分担執筆）】

1. [貨幣再考——移りゆく貨幣の行方を考えるために](#)

鎮目雅人（担当:分担執筆, 範囲:第3章「近世日本貨幣史の転換点—明和五匁銀と南鐐二朱銀の発行—」を執筆）

岩波書店 2026年3月30日 (ISBN: 4000617532)

2. [史料集 近世・近代日本の「仁政」「富国」論—改革の理念と政治・社会—](#)

小関悠一郎編（担当:分担執筆, 範囲:第3章「文化年間大名貸商人の「富国」論」を執筆）

2026年3月

3. 「取引社会と法」岩谷十郎・松園潤一郎・高田久美編著『よくわかる日本法制史』 ミネルヴァ書房 2025年5月 118-120頁

4. 「幕藩制国家の領主財政と市場」岩谷十郎・松園潤一郎・高田久美編著『よくわかる日本法制史』 ミネルヴァ書房 2025年5月 114-115頁

【論文】

1. [Unusual solar radiation and its impact on the Japanese rice market during the 1830s famine](#)

Mika Ichino, Kooiti Masuda, Takehiko Mikami, Yasuo Takatsuki

Scientific Reports 16(1) 2026年2月18日 査読有り

2. ["Yamagata Banto, On Great Knowledge, with an introduction by Yasuo Takatsuki, John D'Amico, and Taro Hisamatsu"](#)

Yasuo Takatsuki, John D'Amico, Taro Hisamatsu

The History of Economic Thought 67(1) 25-45 2025年6月25日 招待有り筆頭著者

・（ディスカッションペーパー）

1. [Complementarities between Long-Term Relationships and Short-Term Contracts: Case of Early Modern Japan](#)

Hideshi ITOH, Takashi SHIMIZU, Yasuo TAKATSUKI

Discussion Paper Series, RIEB Kobe University DP2025(33) 1-51 2025年12月

【その他】

1. 「江戸幕府と『ままならない米価』」『月刊みんぱく』2026年1月号 2-3頁 2026年1月

2. 「秘策は『為政者と市場』の対話—米価と格闘した江戸幕府」『Wedge』2025 年 10 月号
40-43 頁 2025 年 9 月

<学会報告等研究活動>

1. (報告) The 3rd Joint CCSS-UvA Workshop on Computational Social Science and Intelligent Systems, Amsterdam 2025, University of Amsterdam, February 26, 2026, “The Potential of Historical Data: Insights from Early Modern Japan”
2. [Complementarities between Long-Term Relationships and Short-Term Contracts: Case of Early Modern Japan \(Joint work with Hideshi Itoh and Takashi Shimizu\)](#) Yasuo Takatsuki
日本金融学会歴史部会 2026 年 2 月 14 日
3. [堂島米市場の再興と五代友厚—米価の安定を目指して—](#) 高槻泰郎
五代友厚生誕 190 年記念講演会 2026 年 2 月 10 日 株式会社大阪取引所、大阪商工会議所
大阪企業家ミュージアム 招待有り
4. [Complementarities between Long-Term Relationships and Short-Term Contracts: Case of Early Modern Japan \(joint work with Hideshi Itoh and Takashi Shimizu\)](#) Yasuo Takatsuki
Contract Theory Workshop (CTW) 2026 年 1 月 24 日
5. [江戸・明治時代に学ぶお金との付き合い方](#) 高槻泰郎
くらしとお金に役立つ講演会 2026 年 1 月 23 日 大阪府金融広報委員会、金融経済教育推進機構 招待有り
6. [Complementarities between Long-Term Relationships and Short-term Contracts: Case of Early Modern Japan \(joint work with Hideshi Itoh and Takashi Shimizu\)](#) Yasuo Takatsuki
The Osaka Workshop on Economics of Institutions and Organizations (OEIO) 2026 年 1 月 16 日
7. (招待講演) 第 18 回適塾講座 近世の大坂における商家・商取引・金融 大阪大学中之島センター 2025 年 10 月 21 日 「江戸時代の大坂の富一大名と商家の關係に着目して—」
8. (基調講演) 加島屋 400 年 特別企画 商都大坂を支えた豪商の信仰 北御堂ミュージアム 2025 年 10 月 18 日 「加島屋と商都大坂を支えた豪商の信仰」
9. (学会報告) The First Biennial Conference of the Asian Association for Environmental History (AAEH2025), Kagawa University, September 29, 2025, “Abnormal climate and its Impact on market economy: the relationship between reconstructed solar radiation and rice price during the 1830s famine in Japan (joint work with Mika Ichino, Kooiti Masuda and Takehiko Mikami)”
10. [Unpacking Tokugawa's Bureaucracy: A Preliminary Report \(joint work with Yamasaki Jinichi and Katsuya Takii\)](#) 小樽商科大学土曜研究会 2025 年 8 月 27 日 招待有り
11. (招待講演) 「TEAM EXPO パビリオン」ステージイベント 日本文化の継承と魅力発信—古文書から読み解く歴史— EXPO 2025 大阪・関西万博 2025 年 7 月 27 日 「商都大阪・堂島米市場に見る江戸時代の『先物取引』」
12. (学会報告) The 18th International Conference of Historical Geographers 2025, Fudan University, July 15, 2025, “Abnormal climate and its impact on market economy: the relationship

between reconstructed solar radiation and rice price during the 1830s famine in Japan” (joint work with Ichino Mika, Masuda Kooiti, and Mikami Takehiko)

13. (学会報告) 社会経済史学会第 94 回全国大会 東北大学 2025 年 6 月 15 日 パネルディスカッション「近世日本経済史研究の回顧と展望」
14. (司会) 社会経済史学会第 94 回全国大会 東北大学 2025 年 6 月 14 日 「幕府による藩札規制政策—米札を中心に— (報告者: 加藤慶一郎)」
15. (司会) 加島屋シンポジウム 中之島会館 2025 年 5 月 17 日

＜社会活動＞

■取材協力 その他

1. 文藝春秋+、「【現代にも通じる堂島米市場のビジネス】徳川吉宗の特異性 デリバティブ取引が大坂に情報を集めた 投機戦術が書かれた指南書も 堂島は“夢を与える場” 研究者がみた『歴史小説』の魅力【門井慶喜×高槻泰郎】」2025 年 8 月 17 日
2. 文藝春秋+、「【米市場なのに米がない！江戸時代の証券&デリバティブ市場】“天下の値段を決める” 大坂堂島米市場とは 米市場の歴史小説を描く苦労 大坂が全国の米価の基準に 大坂商人の“鉄のおきて”【門井慶喜×高槻泰郎】」2025 年 8 月 17 日
3. OVO、「大同生命の源流『加島屋』創業 400 年記念シンポジウム 大阪経済を支えた豪商の歴史ひもとく」、2025 年 6 月 19 日付
4. テレビ番組 NHK BS4K 英雄たちの選択「“米価”は誰が決める?～将軍吉宗 VS 大坂米商人の 20 年戦争～」、2025 年 6 月 5 日
5. 読売新聞 (大阪朝刊／電子版)、「大阪 国際都市の役割を 豪商・加島屋 400 年シンポ」、2025 年 5 月 18 日付
6. 日本経済新聞 (電子版)、「大同生命、豪商『加島屋』創業 400 年の記念シンポジウム」、2025 年 5 月 17 日付

■編集委員・学外委員

編集委員

- ・ 日本経済史研究所 (2019 年 6 月 1 日～)
- ・ 政治経済学・経済史学会 (2014 年 12 月 1 日～)

■学外委員

- ・ International Economic History Association (IEHA) Executive Committee (2025 年 9 月 1 日～)
- ・ 日本銀行金融研究所貨幣博物館諮問委員 (2023 年 10 月 13 日～)
- ・ 日本学術会議連携会員 (2017 年 10 月 1 日～)
- ・ 日本学術会議若手アカデミー (2017 年 10 月 1 日～)

■参加プロジェクト

総合地球環境学研究所の研究プロジェクト (「気候適応史料プロジェクト」)

<産官学連携>

・受託研究

大同生命株式会社：「『加島屋広岡家アーカイブ』の構築」（2025～2027 年度）（研究参加者）

<国際交流活動>

「前近代経済における公共投資の実施形態に関する清朝中国と徳川日本の比較研究」
SNG Tuan Hwee（シンガポール国立大学）と共同研究

特命講師 小代 薫 (Kaoru KOSHIRO)

- ・ 計算社会科学センター／データベース部門
- ・ 経済経営研究所

研究活動

<研究業績>

【その他】

1. 「旧兼松記念館と六甲台キャンパスの建築」『凌霜』第 445 号 33-35 頁 2025 年 4 月

<学会報告等研究活動>

■その他

1. (司会)「未来防災会議 DAY2 異分野共創ディスカッション」防災減災の国際連続ワークショップ KOBE PEER WORKSHOP “MIRAI BOSAI 2026” 神戸大学百年記念館 (オンライン開催) 2026 年 3 月

<社会活動>

■所属学会

1. 日本建築学会 正会員
2. 応用地域学会 正会員

■雑誌編集

- ・ 学術論文レフリー

『日本建築学会計画系論文集』

■学外委員その他

1. 養父市「関宮小さな拠点管理推進会議」 委員
2. 養父市養父市場町「遊休地活用検討委員会」 委員
3. こうべ北野町山本通伝統的建造物保存会 顧問
4. 神戸布引おんたき茶屋保存会 代表 (「実行委員長」)
5. NPO 法人 UnknownKobe 副理事長
6. アーバンデザインセンター神戸 078 (UDC078) 理事
7. 兵庫県建築士会 一級建築士

■その他

- ・ メディア掲載など

「開港以来継がれた都市の気風」神戸大学ニュースサイト News (2025 年 4 月 25 日付)

VI. 今後の展望と方針

本センター（CCSS）は、2018 年 4 月に全学基幹研究推進組織として設置されて以降の短期間において、国内外から著名な研究者を招聘し、CCSS School、CCSS Workshop、計算社会科学ワークショップ等の開催を通じ、国内外の研究者コミュニティに貢献するとともに、研究者を目指す学生に対して教育機会を提供してきた。また、独自のリサーチフェロー制度を設立し、現在、国内外 17 名の著名研究者がリサーチフェローとなっており、研究者コミュニティとの連携強化に努めてきた。さらに、計算社会科学初の国際査読ジャーナルである「Journal of Computational Social Science」の編集を通じ、国際レベルでの計算社会科学研究の発展に貢献している。これらの活動を通じ、2021 年 3 月の「計算社会科学会」の設立において中心的役割を果たした。本センターは、国内唯一の計算社会科学に特化した研究センターであるだけでなく、計算社会科学における国際的研究拠点として認知されつつある。

国内外における本センターの重要性が今後さらに高まることは確実である中、以下 3 つの課題があると考えられる。

1. 予算の獲得

現在独自の予算がない状態であり、外部資金により運営されている活動が多い。ただし、本センターの設立目的自体が外部資金獲得を視野に入れたものであるため、今後、外部資金獲得へ向けた取り組みをさらに強化していく方針である。

2. 学内の他組織との連携

これまでも学内他組織との連携により外部資金獲得等の実績をあげてきたが、今後も、連携をさらに強化し、外部資金の獲得等に繋げていく方針である。また、学内外における情報発信も強化し、「計算系・情報系に強い神戸大学」というブランド戦略にも貢献する。

3. 若手人材の育成

長期的な人事方針に関しては先端経済経営研究学域の中で議論する必要があるが、特命を含めた任期付若手研究者については、本センターには人材育成の実績がある。今後も、予算も人事ポイントともに状況が厳しい中、外部資金による特命教員等を中心に、若手人材・女性研究者の採用・育成に努めたい。

本センターでは、上記 3 課題に取り組むとともに、2021 年 3 月に計算社会科学会が設立され、計算社会科学に対する社会的関心が高まりを見せている中、学術的にも社会的にも貢献度の高い研究もさらに強化していく方針である。